令和８年度 文京区立礫川小学校 授業改善推進プラン〈３年生〉

	現状分析	具体的な授業改善策
国語	・物語文や説明文の内容を読み取る力については概ね身に付いており、文章の大まかな内容や登場人物の様子を理解することができている。 ・自分の考えと友達の考えを比較したり結び付けたりして考える力が十分ではない。 ・授業において発言する児童が固定化し、全体での学び合いが十分に活性化されていない。 ・説明文などを読む際に、必要な情報を整理しながら読み取ることに課題がある。 ・自分の考えや経験を文章で表現する作文力に個人差が見られる。 ・語彙力や漢字の習得状況に差があり、読書量の違いが学習成果にも影響している。	・ペアやグループでの話合いを取り入れ、互いの考えの共通点や相違点を伝え合う活動を充実させる。 ・「付け足し」「質問」「同じ考え」などの話型を活用し、考えを深める。 ・ペアトークや ICT（オクリンクプラス）等を活用し、一人一人が自分の考えを表現する機会を確保する。 ・キーワードに線を引いたり、表や付箋を活用したりして、必要な情報を整理しながら読む活動を行う。 ・メモを基に作文を書く活動を取り入れ、文章の組み立てを意識させる。 ・読書活動を充実させるとともに、学習した語句や漢字を使う場面を意図的に設定する。 ・語彙を広げる活動を日常的に取り入れる。
社会	・八方位、地図記号について、定着が図れていない児童が見受けられる。 ・「学校のまわり」「文京区の様子」「工場の仕事」について、「知識・理解」、「思考・判断・表現」どちらもおおよそ学習内容を理解している。記述式の問題の誤答が若干多い。	・八方位や地図記号について、地図帳や地域地図を活用した繰り返し学習を行うとともに、クイズやゲーム形式の活動を取り入れ、基礎的な知識の定着を図る。 ・学校や地域の地図を用いて、「なぜそこにあるのか」「どの方位にあるのか」を考えながら学習し、知識と実生活を結び付けて理解を深める。 ・記述問題に対しては、「理由を書く」「見付けたことを書く」など短い文で表現する活動を繰り返し行い、自分の考えを文章でまとめる力を育成する。 ・友達の記述例を共有し、書き方のポイントを確認することで、根拠をもとに説明する力や表現力の向上を図る。
算数	・一学期に実施したベーシックドリルから読み取れることは、２年時の既習事項の定着が不十分な児童が多く、全体の正答率は	・朝のドリルタイム等を活用し、復習を促す。既習事項を確認してから新単元を学習する。

	５８．３%だった。特に単位換算や図形に苦手意識がある。 ・単元テストでは、各単元で高得点を取る児童が多く、点数を取れない児童は各クラス２～３名程度いる。 ・「時こくと時間のもとめ方」では時間→分→秒と直したり、「長いものの長さのはかり方と表し方」では１㎞＝1000m の概念の理解が不十分だったりと、単位換算に課題がある児童が多く見られる。	・各教科や生活の中でも単位を意識させる。 ・習熟度別少人数にクラスを分け、できるだけ個に応じた指導をしていく。 ・正答率の低い問題については、朝のドリルタイム等で、繰り返し学習を行い、定着を図る。 ・問題の意図が読み取れない児童が多いため、より丁寧な支援を続ける。
理科	・植物や生き物に関しての興味や関心が高い。 ・観察や実験には意欲的に取り組んでいるが「昆虫」「子葉」「金属」などの理解や定着が十分ではない児童が見られる。 ・実験や観察の結果を比較したり、根拠を基に考察したりする力に個人差がある。 ・理科用語の理解や定着が十分ではなく、記述式の問題で正しく表現できない児童がいる。 ・学習内容と日常生活の関連に気付かない。	・観察や実験の前後に理科用語を確認する時間を設け、写真や実物、ICT 教材を活用しながら言葉と特徴を結び付けて理解できるようにする。 ・観察や実験の結果を比較する活動を取り入れ、話し合う機会を多く設定することで、根拠を基に考える力を育成する。 ・記述例をノートに貼らせる。記述活動を継続的に行う。 ・学習内容と日常生活との関連を意識できるよう、身近な自然や生活場面を教材化し、「学んだことが生活の中でどのように生かされているか」を考える活動を取り入れる。 ・ペアやグループで考えを交流する活動を充実させ、多様な考えに触れながら、自分の考えを整理し表現する力を高める。 ・単元末にはクイズや振り返りシートを活用し、重要な理科用語や学習内容の定着を図る。
音楽	・歌唱や器楽、鑑賞や音楽つくりの活動に進んで取り組む姿が見られる。 ・リズムの模倣や、拍にのって手拍子をしたり体全体を使って表現したりする活動を楽しんでいる。 ・自分なりの思いや考えをもち、それを表現しようとすることができる。 ・歌唱では、自然で無理のない歌い方で歌うことに慣れていない児童もいる。	・歌を歌ったり曲を聴いたりする際には、体を動かしながら取り組む活動を多く取り入れ、旋律の特徴やリズムなどを感覚的に捉えられるようにする。 ・学習の流れやめあてについて、板書や掲示物を使用して共有しながら視覚的にも示していけるようにする。 ・一人一人の声の特徴を生かしつつも、力まず曲想に合った歌い方ができるようにする。

	・リコーダーの学習に意欲的に取り組んでいる。運指や姿勢、タンギング等、教師の個別の声掛けが必要な場合もある。	・リコーダーの指導では、電子黒板を活用して視覚的に捉えながら練習できるようにする ・担任や講師と連携して、一人一人の児童の課題にあった細やかな支援をしていく。
図画工作	・手や体全体を使いながら表す活動に意欲的に取り組んでいる。また、友達と関わりながら活動することを好む。 ・活動をしながら新たなことを思い付き、活動を自ら広げていく姿が多く見られる。	・友達と関わりながら活動したり、相互鑑賞が自然と行えるようにしたりすることで、より意欲的に取り組めるようにする。 ・試しながら表したり、次第に表したいことが明確になるような題材を多く取り入れたりし、自ら活動をつくっていけるように促す。
体育	・運動に意欲的に取り組む児童が多いが、運動技能の習得状況には個人差が見られる（体力テスト結果　A-18.4%、B-24.5%、C-32.6%、D-16.3%、E-8.2%） ・運動経験に偏りがあり、基本的な動きを十分に身に付けていない児童がいる。 ・ボール運動や器械運動において、基本的な動きの定着が不十分で、技能面に課題が見られる児童がいる。	・準備運動や補助運動に多様な動きを取り入れ、走る・跳ぶ・投げる・支えるなどの基礎的な運動能力を継続的に高める。 ・運動技能に応じた場やルールを工夫し、児童一人一人が成功体験を積みながら意欲的に取り組めるようにする。 ・ボール運動や器械運動では、基本的な動きを段階的に指導し、繰り返し練習する機会を確保する。 ・友達同士で動きを見合ったり、手本となる動きを共有したりする活動を取り入れ、技能向上につなげる。
道徳	・道徳的価値について、自分なりの思いや考えをもち、発表や記述などで自分の思いや考えを表出できる。 ・自分自身を振り返ったり、自分の生活に関連付けて今後の言動を考えたりすることについては、具体的な場面はその場では出るが、実際の生活の中で結びつけることは難しい。	・道徳の時間だけでなく、教育活動全てを通して様々な道徳的価値を取り上げ、引き続き考える機会を設ける。 ・道徳の授業の中で、自らの生活に結び付けて考える時間を確保し、価値理解だけで終わらないよう配慮する。また、自分事として考えられるよう授業の中や他教科、日々の生活の中で促していく。
総合	・身近な地域や自然に関わる課題について興味・関心をもって活動に取り組む児童が多い。 ・体験活動や調べ学習には意欲的に参加しているが、自分で課題を見付けたり、課題を深めたりする力には個人差がある。 ・ICT 活用技能の向上が課題である。	・地域や自然に関する体験活動の前後に「なぜだろう」「もっと知りたい」を引き出す問いかけを行い、一人一人が自分の課題をもてるようにする。 ・学習計画シートを活用し、課題設定→調べる→まとめる→発表する活動を繰り返し行うことで、課題を見付け深める力を育成する。 ・PDCA サイクルを意識（試行錯誤を促す）した授業を計画する。 ・情報収集の方法を指導し、必要な情報を選択・整理する力を育てる。

		・他教科等でもタブレットを日常的に使用する。支援員と連携したスキルアップ学習を実施する。
外国語活動	・ALT とのやり取りを楽しみながら、意欲的に活動する児童が多い。 ・ALT に指名して欲しくて、問いの意味を考えずに挙手する児童がいる。 ・外国語（英語）を話すことに自信のない児童がいる。	・英語だけでなく、様々な言語に興味や関心がもてるよう、ALT との触れ合いから外国への興味や関心に繋げていく。 ・ALT の言葉や表情、仕草から、何を問われているのかを考えて、挙手をするように促す。 ・様々に賞賛することで自信をもたせる。 ・児童が発音しやすいように教員が率先して発声や声掛けを行い、恥ずかしさを克服したり、発音の仕方が分かるようにしたりする。